

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 2 日現在

機関番号：13902

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730761

研究課題名(和文) 通常の学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育支援体制に関するニーズ調査

研究課題名(英文) Educational Support Needs on Parents of Children with Hearing Impairment in the Regular Schools : Question Paper Investigation of Parents of Children with Hearing Impairment

研究代表者

岩田 吉生 (IWATA, Yoshinari)

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20314065

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、通常の学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育支援体制に関するニーズを探ることを目的とし、聴覚障害児の保護者が学校に求める支援について、学校全体の支援、通常学級の教員の支援、難聴学級の教員の支援、他の聞こえる児童生徒の支援等について質問項目を尋ね、質問紙調査を行った。結果に関しては、聴力レベル、補聴機器、学習状況等の各要因の分析を行い、聴覚障害児の成長段階における保護者の教育ニーズの変化を検討することができた。その上で、小学校、中学校、高校の通常の学校に在籍する聴覚障害児の教育支援と、保護者支援の在り方を検討することができた。

研究成果の概要(英文)： In this study, I investigated the educational support needs on parents of children with hearing impairment in the regular schools. I performed question paper investigations, and studied the needs of the parents of children with hearing impairment, the support of the whole school, of the teacher in the class and of other children. About the results, I analyzed each factor such as hearing threshold level and hearing aids, the learning situations. And I understood changes of the educational needs of the parents in the stages of growth of the children with hearing impairment. Besides, I could examine parents of children with hearing impairment in the each educational support of elementary school, junior high school and high school.

研究分野：聴覚障害児教育

キーワード：聴覚障害 通常の学級 教育支援 インクルージョン 保護者のニーズ

1. 研究開始当初の背景

日本において通常の学校で学ぶ聴覚障害児の教育について検討すべき課題が山積している。しかしながら、通常の学校で学ぶ聴覚障害児の保護者のニーズについて詳しく調査された研究は日本ではほとんど見られない。岩田(2007, 2009)の研究では、通常の学校に在籍する聴覚障害児の教育支援体制に関する検討を行う際、保護者のニーズを基に、学校の教育支援体制の現状を整理した。本研究をさらに進める中で、保護者のニーズの傾向を把握し、通常の学校においても教育支援が実施しやすい支援項目の優先順位等を検討することで、聴覚障害児が通常学校で学ぶことを支援する際の情報の資源になると考える。

2. 研究の目的

(1) 目的 1

通常の学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育支援体制に関するニーズを探り、通常の学校に在籍する聴覚障害児の教育支援と、保護者支援の在り方を検討することを目的とする。

(2) 目的 2

通常の学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育支援体制に関するニーズの実態を把握するために、質問紙による調査研究を行い、量的・質的検討することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 調査対象

難聴児を持つ親の会、人工内耳友の会の会員で、聴覚障害のある小学生の保護者 50 名および中学生の保護者 20 名とした。

(2) 調査内容及び手続き

質問内容

調査内容は、『サポート・ブック』(名古屋聴覚障害児を持つ親の会、2003)で挙げられている学校での聴覚障害児への具体的な配

慮を参考に、学校の教育支援の取り組みに関する保護者のニーズを調査した。

質問紙調査の構成

調査対象者の保護者には、質問紙調査により、アンケート回答時点までの学校における教育支援に関して回答してもらった。質問紙の内容は、以下に示す通りである。

a) 学校全体の配慮の要望

主に補聴機器の支援や学校行事に関する情報保障、学校生活全般の配慮の要望について尋ねた。

表 1 に、学校全体の配慮の要望質問項目の一覧を示す。

表 1. 学校全体の配慮の要望の質問項目

質問 1 「必要なときに、補聴関係 (FM 補聴器、ループ式アンテナ等) の使用の支援を行う。」

質問 2 「チャイムの代わりに、フラッシュランプによる授業の開始時刻・終了時刻の知らせを行う。」

質問 3 「質問学校生活全般の情報保障 (休み時間・部活動・緊急時の連絡・校内放送) を行う。」

質問 4 「入学式・卒業式等の室内の行事における情報支援機器 (要約筆記、PC テイク) による情報保障を行う。」

質問 5 「遠足・運動会における情報保障 (要約筆記、PC テイク) を行う。」

質問 6 「社会見学等の校外指導における情報支援機器 (要約筆記、PC テイク) による情報保障を行う。」

質問 7 「全校集会・学年集会等における情報支援機器 (要約筆記、PC テイク) による情報保障を行う。」

質問 8 「全校集会等で児童への難聴理解の指導を行う。」

質問 9 「職員会議等で教職員への難聴理解の指導を行う。」

質問 10 「校内の家庭への通信等を活用して、保護者に対する難聴理解の啓発を行う。」

質問 11 「手話部等の聴覚障害児の理解を目的としたクラブ活動を設置し活動を行う。」

b) 通常の学級の教員の配慮

教員の聴覚障害児に対する授業中の配慮や、学級における難聴理解の授業に関して尋ねた。

表2に、通常の学級の教員の配慮の質問項目の一覧を示す。

表2. 通常の学級の教員の配慮の要望の質問項目

質問12「ゆっくりと話してくれる。」
質問13「前を向いて話してくれる。」
質問14「板書を多くしてくれる。」
質問15「ネームプレート等の文字板を活用した配慮がある。」
質問16「授業の資料を多く作成してくれる。」
質問17「ビデオを視聴しているときは、映像を止めてから説明する等の配慮がある。」
質問18「掲示資料を説明するときは、適宜、ポーズをいれながら説明する等の配慮がある。」
質問19「聴覚障害児が授業を理解しているかどうか時々確認してくれる。」
質問20「OHP、OHC、PowerPoint等を活用した授業を行ってくれる。」
質問21「授業の重要な連絡事項は、メモ・通信等を書いて渡してくれる。」
質問22「家庭（保護者）への重要な連絡事項は、メモ・通信等を書いて渡してくれる。」
質問23「他の児童の発言は教師が復唱してくれる。または、板書でメモしてくれる。」
質問24「グループでの話し合いの際は、聴者の児童に集団での話し方について注意を与えてくれる。」
質問25「通常の学級で難聴理解の授業がある。」
質問26「授業において、要約筆記、PCテイクによる情報保障がある。」

c) 他の聞こえる生徒の配慮の要望

聴覚障害児の身近にいる他の聴者の生徒たちが聴覚障害児に対してどのように配慮しているかを尋ねた。

表3に、他の聞こえる生徒の配慮の要望の質問項目の一覧を示す。

質問27「各種学校行事等で情報支援をしてくれる。」
質問28「学校生活の中で情報支援してくれる。」
質問29「授業の中で情報支援をしてくれる。」

手続き

質問紙を作成した上で、通常の小中学校に在籍する聴覚障害児の保護者に対して郵送にて回答を依頼した。質問項目について、「常に要望する」項目に「○」、「時々要望する」項目に「△」、「要望しない」項目に「×」を記入することを依頼した。

4. 研究成果

(1) 小学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育支援に関するニーズ調査

学校全体の配慮に関する保護者の要望

学校全体の配慮についての保護者の要望に関して、あてはまる(○)またはややあてはまる(△)の回答の合計が80%以上であった質問項目は、質問1「必要なときに、補聴関係(FM補聴器、ループ式アンテナ等)の使用の支援を行う。」、質問9「職員会議等で教職員への難聴理解の指導を行う。」の11質問項目中2項目であった。また、あてはまる(○)またはややあてはまる(△)の回答の合計が50%未満であった保護者の要望の質問項目は、質問2「チャイムの代わりに、フラッシュランプによる授業の開始時刻・終了時刻の知らせを行う。」、質問11「手話部等の聴覚障害児の理解を目的としたクラブ活動を設置し活動を行う。」11質問項目中2項目であった。11質問項目中7項目のその他の保護者の要望の質問項目に関しては、あてはまる(○)またはややあてはまる(△)の回答の合計が50%~80%未満であった。

学校全体の配慮に関する項目において、質問1の要望が高かったが、近年、通常の学校に就学する聴覚障害児の場合、FM補聴器または人工内耳を装用し、教員にFMマイクを付けてもらうことで聴こえの補償を行うケースが増えており、保護者の要望の結果に反映されたことが推測される。FM補聴器システムの導入に関しては、教育委員会の予算や校費で購入する場合と、保護者が自己負担で購

入る場合があるが、子どもの要望を鑑みながら、今後も通常の学校で活用する機会が増えていくことだろう。また、質問9の保護者の要望も高かったが、聴覚障害児の担任教員の理解だけでなく、学校のすべての教員に聴覚障害児の存在とその障害について理解を求めていきたいという保護者の気持ちの表れが示されたと考える。また、質問11については、今回の調査では、保護者の子どもの約半数が人工内耳装用児であったことや、補聴器装用閾値が40dB以下であった聴覚障害児が全体の約7割であったことから、日常では手話を必要としないと考える保護者が多かったことが予想される。

しかしながら、学校全体の配慮の全体の結果としては、質問項目11項目中9項目に関して、保護者の要望の割合が50%以上あったことから、学校生活全般を通して聴覚障害児の支援を求めたいと保護者が考えていることがわかった。

通常の学級の教員の配慮に関する保護者の要望

通常の学級の教員の配慮についての保護者の要望に関して、あてはまる(○)またはややあてはまる(△)の回答の合計が80%であった質問項目は、質問12「ゆっくりと話してくれる。」、質問13「前を向いて話してくれる。」、質問14「板書を多くしてくれる。」、質問19「聴覚障害児が授業を理解しているかどうか時々確認してくれる。」、質問22「家庭(保護者)への重要な連絡事項は、メモ・通信等を書いて渡してくれる。」、質問23「他の児童の発言は教師が復唱してくれる。または、板書でメモしてくれる。」、質問24「グループでの話し合いの際は、聴者の児童に集団での話し方について注意を与えてくれる。」の質問項目14項目中7項目であった。

この他、保護者の要望に関して、あてはまる(○)またはややあてはまる(△)の回答の合計が50%未満であった質問項目は1つもみら

れなかった。そして、あてはまる(○)またはややあてはまる(△)の回答の合計が50%~80%未満であった質問項目は14項目中7項目であった。

他の児童の配慮に関する保護者の要望

他の児童の配慮についての保護者の要望に関して、あてはまる(○)またはややあてはまる(△)の回答の合計が80%であった質問項目は、質問27「各種学校行事等で情報支援をしてくれる。」質問28「学校生活の中で情報支援してくれる。」質問29「授業の中で情報支援をしてくれる。」の質問項目3項目中3項目すべてであった。

多くの保護者は他の聴こえる児童に対して、学校行事や学校生活の中での情報支援を要望しており、他の聴こえる児童に支援してもらいながら、聴覚障害児に学校生活を送ってほしいという思いがあることが推察された。質問27、質問29に関しては他の聴こえる児童も活動したり、学習する必要があるような制約があったとしても、周囲の友人に理解してもらい、適宜、配慮がつけられことを期待している保護者が多いことがわかった。

(2) 中学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育支援に関するニーズ調査

学校全体の配慮に関する保護者の要望

「学校生活全般の配慮」に関して、質問1「必要な時に補聴関係(FM補聴器の貸与、ループ式アンテナ等)の支援がある」では、常に要望する(○)と時々要望する(△)を合わせると14名(70%)、質問3「学校生活全般の情報保障(休み時間・部活動緊急時の連絡・校内放送等)がある」では12名(60%)であった。質問2「チャイムの代わりに、フラッシュランプによる授業の始業時刻・終了時刻の知らせがある」では要望しない(×)が20名(100%)であった。

「学校行事の情報保障」では、常に要望する(○)と時々要望する(△)を合わせた結果が、

質問 4「入学式・卒業式」では 8 名(40%)、質問 5「遠足・運動会」では 6 名(30%)、質問 6「社会見学等」では 10 名(50%)、質問 7「全校集会・学年集会等」では 10 名(50%)という結果であった。

「その他の学校生活全般の配慮」について、質問 8「全校集会等で児童への難聴理解の指導がある」、質問 9「職員会議等で教職員への難聴理解の指導がある」では常に要望する(○)と時々要望する(△)を合わせると 14 名(70%)以上となった。質問 10「校内の家庭へ通信・お便り等を活用して、保護者に対する難聴理解の啓発が行われている」に関しては、要望しない(×)が 16 名(80%)であり、校内の家庭への難聴理解の啓発については求めている保護者が少ないことがわかった。

学校生活では、授業以外にも入学式などの体育館で行う式や全校集会、学校以外の場での遠足・社会科見学、運動会等、難聴生徒が情報保障を得にくい状況の中での学校行事がある。そのため、入学後に情報が得られにくい状況に気づき、情報保障を求める保護者が多くなったことが推測される。学校行事のように、広い場所で、学校全体が参加する場で難聴生徒が他の生徒と同じように情報を得るためには、学校全体の理解が必要である。また、校内放送については、難聴生徒は放送がされていること自体気付かず、情報が漏れてしまう可能性もある。そのため、放送があれば周囲の生徒が難聴生徒に対して放送内容を復唱したりする等の配慮が必要となる。このような配慮は、先生だけではなく、周りの生徒にもこの配慮の必要性を説明し、他の生徒も実行していくことが求められる。

通常の学級の教員の配慮に関する保護者の要望

質問 12「ゆっくりと話してくれる」、質問 13「前を向いて話してくれる」、質問 14「板書を多くしてくれる」に関して、常に要望する(○)と時々要望する(△)を合わせたものが

90%を超えていた。質問 16「授業の資料を多く作成してくれる」については、常に要望する(○)が 12 名(60%)であった。また質問 19「聴覚障害児が授業を理解しているかどうか時々確認してくれる」については、常に要望する(○)が 14 名(70%)という回答が得られた。質問 23「他の生徒の発言は教師が復唱してくれる。または、板書でメモしてくれる」、質問 24「グループでの話し合いの際は、聞こえる生徒に集団での話し方について注意を与えてくれる」について、常に要望する(○)と時々要望する(△)を合わせたものが 16 名(80%)であった。質問 25「通常の学級で難聴学級の授業がある」については、常に要望する(○)と時々要望する(△)を合わせると 14 名(70%)となった。

通常の学級における情報保障の要望について、質問 26「授業において要約筆記、PC テイクによる情報保障を行う」については要望しない(×)が 12 名(60%)と半数以上が要望していないということがわかった。

「ゆっくり話す」「前を向いて話す」「板書を多くしてくれる」「聴覚障害児が授業を理解しているかどうか時々確認してくれる」などの基本的な教育支援を要望する保護者が多いことがわかった。このことから、基本的な支援が難聴生徒にとっていかに大切であるかが理解できる。人工内耳や補聴器により、会話のやりとりが普通にできてしまっている生徒が多いため、教員は難聴生徒の聞こえにくさを見逃してしまっていることが多くあるだろう。少しでも難聴生徒の聞こえにくさを見逃さないようにするためにも、適宜、生徒個人に対して教員が話した内容を理解しているかどうかの確認をすることを保護者は求めている。

難聴理解の授業に関しては、常に要望する(○)と時々要望する(△)を合わせると 70%の保護者が通常の学級での難聴理解の授業を求めていた。難聴理解の授業をすることで、周

りの生徒の理解を得ることができる。しかし、難聴理解の授業を行い、他の生徒たちが難聴を理解した上で、さらにどうすればいいのか、という配慮の段階まで考えていく授業が必要である。

通常の学級の情報保障に関しては、半数以上の保護者が情報保障を望んではいなかった。このことから、学校行事よりも授業の情報保障を求めている保護者が少ないということが読み取れる。授業では、自分の学習の力で補えてしまえる場合が多い。しかし、学校行事は、その場で情報をすぐに得ることができなければ、自分の力ではどうしてもできない。そのため、学校行事の情報保障を求める保護者が多いことが伺われた。

他の生徒の配慮に関する保護者の要望

他の生徒の配慮については、常に要望する(○)と時々要望する(△)を合わせたものが、質問 27「各種学校行事等で情報支援をしてくれる。」と質問 28「学校生活の中で情報支援してくれる。」が 14 名(70%)、質問 29 授業の中で情報支援をしてくれる。」が 12 名(60%)となった。

他の生徒の配慮に関して、全ての質問項目において、半数以上の保護者が他の生徒からの配慮を求めているということがわかった。難聴生徒が中学校の入学後、自発的に他の生徒にまた支援を求めることと、他の生徒との関係を築きながら聞こえる生徒が自然な配慮がなされる教育環境を期待していることが伺われた。

5 . 主な研究発表等

[原著論文] (計 2 件)

岩田吉生 (2015) 小学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育支援に関するニーズ調査—2014 年度・保護者に対する質問紙調査を通して—障害者福祉・教育学研究, 愛知教育大学障害児教育講座紀要, 11, 27-32, 愛知教育大学 .

岩田吉生 (2014) 中学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育支援に関するニーズ調査—保護者に対する質問紙調査を通して—, 愛知教育大学研究報告. 教育科学編 63, 39-44, 愛知教育大学 .

[学会発表] (計 4 件)

岩田吉生 (2014): ポスター発表「小学校の難聴学級に在籍する聴覚障害児の保護者の教育的ニーズに関する調査 - 入学前の要望、教育支援の現状、今後の要望の比較検討 - 」, 日本特殊教育学会第 5 2 回大会 . 高知大学 (高知県) 2014 年 9 月 20 日 .

岩田吉生 (2013): ポスター発表「高等学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育的ニーズに関する調査 - 入学前の要望・教育支援の現状・今後の要望に関する比較検討 - 」, 日本特殊教育学会第 5 1 回大会 . 明星大学・日野キャンパス(東京都) 2013 年 9 月 1 日 .

加藤哲則、岩田吉生、鶴田美律、平島ユイ子 (2012): 自主シンポジウム「通常の学級で学ぶ聴覚障害児の教育支援 (その 3) - 軽・中等度難聴乳幼児・児童に対する必要な支援の現状と課題 - 」, 日本特殊教育学会第 5 0 回大会 . つくば国際会議場・つくばカピオ (茨城県) 2012 年 9 月 30 日 .

岩田吉生 (2012): ポスター発表「通常の中学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育的ニーズに関する調査 - 入学前の要望・教育支援の現状・今後の要望に関する比較検討 - 」, 日本特殊教育学会第 5 0 回大会 . つくば国際会議場・つくばカピオ (茨城県) 2012 年 9 月 28 日 .

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

岩田 吉生 (IWATA, Yoshinari)
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 2 0 3 1 4 0 6 5